

加 計 第 92号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

加古川市長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、本市の道路行政に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付国道企第37号でご依頼のあった標記のことについては、別紙のとおり提出いたします。

本市におきましては、兵庫県南央部に位置する東播磨地域の中核都市として、広域的な地域間連携、文化交流、商業圏の拡大等の促進を図り、活力と魅力のあふれる地域づくりを積極的に推進しております。こうした施策を進める上で、市民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的な社会基盤である道路網の確立が必要不可欠となっていること、また、円滑で快適な道路交通及び歩行者等の安全な通行確保のため、幹線道路及び生活道路の整備が急務となっています。

しかし、成熟社会と言われる昨今ですが、未だ課題が山積しているところで

す。

このような地方都市の現状をご理解いただき、整備効果の高い路線への早期効果出現を図るための新たな制度確立をご考案いただく中で、財源確保及び補助率の増高に格段のご配慮をお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望、提案など

兵庫県加古川市

○ 各市の道路交通環境に応じた補助率の拡大

高度経済成長期にベッドタウンとして、日本経済の発展に寄与した地方都市では、学校建設等の人口増加対策に傾注した結果、基盤整備が立ち遅れています。このため、未だ、交通体系上重要な道路整備が殆ど出来ていない状況に加え、財源確保が厳しい状況にあります。また、地方財政の実情は、少子・高齢化、地方基幹産業の不振、三位一体改革等により、歳入面では地方税の伸び悩みと地方交付税が減少し全体として横ばい状態であり、歳出面では福祉・医療関係の扶助費の増大により、経常経費のみにおいても支出超過の状況であります。

このように逼迫した地方財政においては、今後、安全面、交通面、物流面で大きな効果が期待できる路線すら整備できない状況となります。

今春、道路特定財源が一般財源化の閣議決定がなされ、その財源の行方がこれから議論の的になると思われますが、貴省の財源所管省としての立場から、本市のような地方都市における「整備効果が大きな路線」にあっては、補助率の増高により、早急に課題解決できる仕組みづくりについて、強い働きかけをお願いします。

また、道路行政においては、市民生活に密着した地域内道路の改良といった小規模事業への補助率の拡大の検討をお願いいたします。

○ 広域的な道路交通環境問題を抱える幹線道路の整備推進

大規模な地震への防災機能の確保、地域自立の要となる地域産業の振興等に直結する基幹道路の整備は、国と地方の共通の喫緊の課題としてとらえ、推進を図っていただきたくお願いいたします。

○ 効果的な維持管理制度の構築

高度経済成長期以後、大量に建設された道路橋が、経年と手薄な点検・保守のもと、老朽化が進行しております。道路橋は地域経済、市民生活にとっても大きな役割を担っており、耐震強化や車両の大型化等これからの課題も残されています。地方においてはこの重要な社会資本の長寿命化に向け、国による維持管理の指針、技術的な指導と開発、さらに補助メニューの充実を図っていただきたくお願いいたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②-1 地域の現状と抱えている課題

兵庫県加古川市

■ 現 状

○西播磨から阪神地域へのアクセス性に富んだ国道2号加古川バイパスに交通が集中するため、飽和状態となっており、各ランプ部交差構造も起因して本線への渋滞及び交差道路の渋滞が頻繁に発生。

⇒ 市域の都市計画道路を全て整備しても国道2号加古川バイパスの交通渋滞の解消はできないため、市域の道路問題は解消しない。新たな東西幹線道路が必要。

○市内の中心部を東西に貫通する国道2号の対面通行区間での断続的な渋滞

○以上が起因し、生活道路への通過車両の侵入

○踏切部での頻繁な渋滞及び車両と歩行者自転車の輻輳による事故

○一級河川加古川の渡河部での断面不足による橋梁前後の渋滞

■ 課 題

○ 広域交通を受持つ東西幹線道路の断面不足解消

⇒ 「播磨臨海地域道路」の位置付けと整備推進

○ 東西幹線道路と連携する路線の整備推進と交差部の交通渋滞解消

○ 踏切事故防止と円滑な交通確保のため、鉄道事業者と連携した緊急踏切道の整備

○ 歩行者、自転車にやさしい地域内道路の計画的・効果的な新設改良

○ 加古川渡河部断面の増強 ⇒ 新橋梁の整備推進

公共交通が未熟な地方都市では、道路交通政策に重点的に取り組む必要がある。

安全で機能的なまちを目指して

- 道路整備の波及効果が最大限に発揮されるよう、効果的な幹線道路ネットワークを形成
- 地域内道路について、質の高い道路整備を図り、市民生活の向上をめざす

主要な道路が整備され渋滞が緩和されることにより、

- 生活交流が円滑で快適・安全・安心な住宅市街地の形成
- 物流効率が高く、生産性の高い工業地の形成
- 生活・物流交流が活発な広域商業核の形成

「播磨臨海地域道路」の実現及び踏切安全対策（ボトルネックの解消）による道路交通環境の改善

- 新たな東西の広域道路の構築による危機管理に優れた安心な市街地の形成
※国道2号加古川バイパスのバイパス機能を有する「播磨臨海地域道路」の実現

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

兵庫県加古川市

■重点事項	■代表事例	■期待する効果や評価等	■その他
○地域幹線道路の整備	○播磨臨海地域道路の整備推進	○臨海部の発着交通が分散され、渋滞緩和により、(1)定時性が確保され(2)物流効率化による生産性が向上し(3)加古川バイパスとの2軸化による危機管理機能の強化(4)市内の交通環境が大きく改善される。 当該路線の実現により、広域的に大きな効果が期待されている。	
○慢性的渋滞への対策	○緊急対策踏切改良事業	○本市を東西に走るJR山陽本線により、沿線市街地が南北に分断されています。各所にある「開かずの踏み切り等」の速効対策を講じることにより、南北交流の阻害緩和、歩行者、自転車利用者等の安全確保が図れます。	
○社会資本の長寿命化	○道路橋の維持管理事業	○市の管理として830橋（L=15m以上は88橋）有していますが、定期的点検、予防保全、補強対策等適切な管理手法の確立により、効率良い対策を実施し、道路橋の長期寿命化が図れます。	